

Vol. **141号**

2007 (平成19)年
1月発行

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

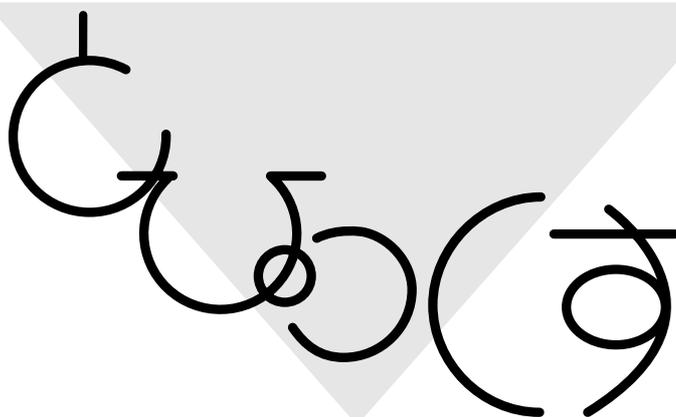
コロ- 社会福祉 東京コロニー
法人
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 18 作者 岡村 陸矢『赤おに、青おに、黄色おに』(詳しくはP11頁をご覧ください。)

とびっくす
法人の主な動きから
2006年度 上半期総括事業報告書

法人本部・コロニー印刷所・コロニー中野・アートビリティ・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター機能開発室・トーコロ生活支援センター(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・トーコロ情報処理センター事業部(〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8)・コロニー東村山印刷所・コロニー東村山・コロニー東村山第二印刷所(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・浜松町工場(〒105-0022 港区海岸1-4-17)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)



葛飾工場

「危機管理産業展2006」を東京ビッグサイトで開催
来場者は、約80,000人と大盛況

平成18年の10月24日（火）から26日（木）の3日間、東京ビッグサイト西1・2ホールで「危機管理産業展2006」（主催・ビッグサイト、特別協力・東京都、後援は、内閣府、警察庁、防衛庁、総務省消防庁、海上保安庁など関係機関が名を連ねる）が盛大に開催されました。

テーマは、「東京から発信するRISCON TOKYO (Risk Control Tokyo)」で、いわゆる防犯・防災・リスク管理の我が国最大の見本市。期間中は、展示会のほか、シンポジウム、危機管理セミナー、関係機関のデモンストラクションなど、実に多彩な催しが展開されました。

当葛飾福祉工場も防災対策のエキスパートとして、出展者約300社中の1社として参加。今回の展示では、「家庭の安全対策」「企業の防災対策（災害発生に伴う事業継続計画や社会的責任、帰宅困難者への対応）」



（葛飾福祉工場のブース）

をポイントに、家庭、地域及び事業所、自治体での災害対策に役立つ各種防災用品を展示しました。

会場は、連日満員の盛況。入場者は、約8万人、昨年の3万人を大幅に上回りました。当工場へのブースにも大勢の方が立ち寄り、職員から詳細な商品説明を受けたり、防災・避難用品を実際に手に取ったりと、引きも切らない様子でした。

担当者によると「昨年よりも確実に

に入場者が増えています。最近の国内外の災害発生やテロなど、危機管理に対する関心が非常に高まっています。こうした機会を通して、少しでも東京コロナと葛飾の名が広まればこんなうれしいことはありません。」とコメントしてくれました。危機管理産業展の常連である、信頼のブランド・ファイアマンマークが、また東京の地から全国に発信された瞬間です。

（総務部長 君島久康）



大田工場

「ノロウイルス」への対応

「ノロかもしれない・・・」と相談に来たこの一言からノロウイルスへの対応が始まりました。まず、緊急受診の必要性を説明、病院へ。結果が出るまでの間、エレベーター周辺洗面所周辺、自販機など消毒をしま

した。「ノロウイルス」との診断報告を受けてから、所属課上司より同僚部下へ説明してもらい、その後本人専用のパソコン周辺、机・椅子等から消毒開始、本人が手に触れたと思われる場所は全て消毒対象となりました。嘱託医に連絡相談、確認の上、本人には頻回なる手洗いの必要性、汚物の取り扱い消毒方法、症状がなくなつてから3日間は出勤しない事、その間の食堂利用は中止を伝えました。症状が消えても、ウイルスの排泄は通常1週間、長い時は1〜3ヶ月も続くので手洗いだけは続けるように説明をしました。

翌日、ワーカー、総務部長との打合せ、集団感染を防ぐのに何が出来るかを話し合いました。第一は食事直前に手洗いしてもらう。その為に、食堂ドアにポスター掲示食堂手洗い場に液体石けんとペーパータオルを設置、各自ご飯をよそっていたのを食堂の方に協力を得て、専門によつてもらふことにしました。次は二次感染の防止です。ノロウイルスの特徴や感染予防方法をまとめ、安全衛生委員会や部課長会に配布し啓蒙を図ると共に、「ノロセット」として処理用備品を作成し総務・浜松町工場にセットしました。また、手すり、ドアノブ、エレベーター周辺、水道蛇口など洗面所トイレ周辺、自販機などの消毒を毎日又は定期的に実施する事にしました。

これらの対策内容を嘱託医に報告し承諾を得ました。従業員には、ノロと疑われる時は無理に出勤せず受診する事、吐物の扱いは触れずに、速やかに看護師か総務に連絡する。この二点の周知を図っています。現在感染報告は一名です。これ以上増やさない為に、マスク・手袋・バケツの怪しい姿で消毒を続けていきます。

(看護師 佐藤和子)



東村山工場

東村山市の福祉のつどい

11月末から12月頭にかけて、東村山市では「福祉のつどい」が開催されました。「福祉のつどい」は、年に1回、市と東村山市社会福祉協議会の共催で開かれるイベントで、コロナも協賛団体として毎年参加して

います。障害の有無や年齢・性別を問わず地域の人々の交流を図ることと社会福祉への関心の喚起を目的としており、スポーツ・展示・シンポジウムなど盛りだくさんな内容で今年開催23回目をむかえました。

スポーツ交流会

11月25日には、市内の体育館で福祉のつどいスポーツ部門の交流会が開催されました。今年のテーマは「ユニスポーツを楽しもう!!」。カリーリングに似た「ユニカール」や、お手玉のようなボールを投げる「ボッチャ」など、誰もが楽しめる珍しいスポーツが体験できました。朝から福祉関係者や親子連れが訪れ、なかには順番待ちの行列が出来たスポーツもありました。

展示・舞台発表会

12月1〜3日には、市内の公民館で展示・舞台発表会が開催されました。この会は福祉施設・団体による展示紹介および舞台での演芸発表が中心ですが、今年は自主製品の販売も加わり華やかさがアップしました。舞台発表には多くの観客が集まりました。こども達による歌、福祉施設・団体による渾身の演奏と舞踏、プロの演奏家によるクラシック音楽等など、多様な演技者の技が披露され、充実した内容でした。これからの「福祉のつどい」の取り組み

交流を図ることと社会福祉への関心の喚起です。ですからより多くの方に「つどい」に参加して頂きたいと考えています。今回の「つどい」では、集客力を高めるために自主製品を販売するなどの新しい取り組みを行いました。これにより参加する人の数は増えたと感じていますが、まだまだ足りない現状も認めざるを得ません。人々が集う活気あるイベントとなるよう、魅力ある企画を提案していければと考えています。コロナもますます積極的な参加を！ご協力をお願いします。

(総務部 本多 舞)



(東村山市福祉のつどい事務局資料提供)

青葉ワークセンター

新事業での試行プログラムの開始

青葉ワークセンターでは2007年4月から障害者自立支援法に基づく新事業への移行を検討しています。新事業は就労移行支援事業と就労継続支援事業（B型）を予定しています。

利用者の皆様のアンケートなどから就労継続支援事業（B型）を希望する方が大半であることも明らかになりました。一方、「一定の力があり働ける人は企業へ！」が自立支援法の主旨でもあります。国の財政が逼迫し新しい施設を建設することが極めて困難な状況にあるとすれば、養護学校の新卒者受け入れ、高次脳機能障害などの中途障害を持つ人たちのための施設は必要です。既存の施設が新しい人を迎えるためには、施設から企業での一般就労への流れを作り、新しく迎え入れる必要があります。そこで、就労移行支援事業の選択も行つことにいたしました。

就労継続支援事業（B型）では、従来、「働くこと」を中心に組み立てられてきた施設での過ごし方を見直し、新たなプログラムを取り入れ、皆様一人ひとりのQOLの向上に役

立てる施設作りを目指しています。

3月まで次のようなプログラムを試行し、その結果をふまえてプログラムの見直しを行い、4月から本格的に実施をしていきます。プログラムの構成は以下のようになります。

生活に役立つプログラム

①生活訓練
買い物・交通機関の利用／清掃／調理

②休日・余暇の充実
手芸／工芸を習い趣味の幅を広げる

③健康維持・管理のために
スポーツ／散歩
などを通じて生活に役に立つことを身につけ、健康維持・管理を支援する。

④社会貢献プログラム
近隣の老人施設（東京都東村山ナーシングホーム）でお年よりのお話し相手・コーヒーマーケット、クラブ活動・行事のお手伝い、シート交換など様々なボランティアを行なうことにより、人のために役立つことの喜び、やりがいを感じる。

施設外実習
①スーパーマーケットでの実習（イトーヨーカドー、西友）
②農作業（すでに東村山市内に農場を借りました。青空の下で働き野菜を育てる喜びを味わい、加えて体力増強を目指す。

施設外での実習を通じ、「施設で働くこと」と「一般社会で働くこと」の違いを体験する。
また、就労移行支援プログラムとして



（試行プログラム パソコンの実習）

①パソコンの実習
ワード・エクセルの基本を学び、就労したときのために最低限の知識を習得しておく。

②電話応対・挨拶マナー実習
一般就労を前提としてビジネス電話の応対、接客マナーなどを学ぶ。を実施いたします。

希望調査結果で一番人気のあったプログラムは「スポーツ・散歩」で30名の希望がありました。
日ごろの運動不足の解消と気分転換の必要性を感じている方が多いということがわかります。二番目は「調理」、22名の希望がありました。以下、パソコン実習、農作業・・・などです。

いずれのプログラムも週に1回ないし2週に1回程度を予定しています。

また、ご家族の応援もいただくためにボランティアを募集しています。

そのほか、地域のボランティアセンター、施設で実習された学生さんたちにも声をかけています。

ボランティアを希望される方がいらっしゃいましたら、ぜひトコロ青葉ワークセンター（担当：鶴田、電話：042-395-1439）までご連絡ください。

（所長 藤田邦威）

中野工場

パソコン教室を開催

11月に支援センター準備室でパソコン教室を開催しました。中野工場では新事業に向けて複数のプロジェクトを立ち上げていますが、パソコン教室プロジェクトもその一つで、事業所内の利用者の方にパソコンスキルを身に付けてもらうことを目的にしています。

今回は初心者向けの5日間のクラスを試行し、第1回に3名、第2回に4名の利用者の方が受講されました。パソコンの起動、マウスの使い方、キーボード入力、ワードの基本操作等のカリキュラムを毎日2時間ずつ、プロジェクトメンバーが講師、補助講師を担当しました。慣れない

ローマ字入力に苦戦する場面もありましたが、受講者の皆さんの真剣な姿勢には、サポートしたメンバーも驚かされました。



(中野工場のパソコン教室)

初めての試みに試行錯誤でしたが、講習後のアンケートでは、パソコンに興味を持った方、またやってみないと次回の受講を希望される方もいました。また、パソコンに精通した利用者の方に補助講師をお願いして、実際に教える難しさややりがいも体験してもらったこともできました。

今後は趣味や実務レベル等個人のレベルに応じたカリキュラムを用意したいと思っています。講師、補助講師の体制やどのようなカリキュラムを用意するか、これから検討して

いく課題もありますが、利用者の皆さんに楽しく学んでもらえるような講習を開催していきたいと思っています。

(ケースワーカー 松本直子)

IT事業本部

就労のための短期の訓練事業「eラーニングコース」がスタート！

職能開発室では、従来からの2年間のIT技術者在宅養成講座に加え、3〜4ヶ月という短期間で在宅のまま情報処理技術を集中的に身につけられる講習を実施しています。

対象は、身体的に重度の障害があるために一般の専門学校やパソコンスクールに通うのが困難な方です。

この秋、この短期講座の応用コースが、新たに(財)東京しごと財団より委託を受け、就労のための訓練事業「eラーニングコース」となりました。

このコースでは、在宅就労においてニーズの高いWebサイト制作のをしほり、4ヶ月間で
 ・Webアクセスビリティの考え方
 ・スタイルシートによるページデザイン



(短期IT講座の画面)

等の仕事に直結する技術を学びます。また、実際の仕事を題材にしてグループ演習を重ねることで、仕事の進め方やビジネスマナーの習得を目指します。

現在その半分を終えたところで、受講生は皆一日4時間から5時間、ネット上の掲示板に毎日報告や質問を積極的に書き込んでいます。この各自の継続的な努力や講師との日々のやり取りこそが、次のステップである就労につながっていきます。

これからも時代のニーズに合わせて教育事業を展開していきますので、どうぞご期待ください。

(職能開発室課長 堀込真理子)

法人本部

簿記の研修について

9月8日から毎週金曜日の就業後に12回にわたり法人本部において簿記の研修を行いました。

趣旨としては東京コロニーの各事業所で経理事務を行なっている若手スタッフの知識の向上とその知識を実務に役立てることです。

簿記といってもその対象は広く、奥深いものですが、実は計算の原理(会計理論の原理)はたった2つでシンプルなもの。例えば貸借対照表と損益計算書に示される利益(儲け)は一致する複式簿記の原理によって成り立っています。

複式簿記は仕訳において収支計算と損益計算を対称記入することによって実現されます。

しばしば、財務諸表は法人の経済的実態を投写すると言われますが、それはシンプルな計算原理によって行なわれ、数多くのルール(会計原則)を守ることに、真实性が保証されています(真实性の原則)。

したがって、簿記を習得するためには、極めて多くのルールを覚えなければなりません。シンプルな計算原理を体感することだけに限って言えば、極端な労力を必要としません。

自分はそのに着目し、今後実務を行なう上で、処理を考える力を身につけるためにどのような方法があるかを考えました。

1 つめに、広く浅く知識の提案を行なわない。2 つめに、トレーニング中心で行なう。3 つめに、自主学習の領域を増やし、質問を考えてもらって、それについて議論できる時間をつくる。4 つめに、仕訳力と集計力が身に付くようなレジュメや考え方を提案する。

今回は授産施設会計基準など社会福祉法人特有の考え方や、処理の方法は一切触れず、純粋に簿記力を身につける基礎作りをしたいと考えました。

また、演習材料は日本商工会議所の簿記3級の本試験問題のみを活用し、受講者の学習の進捗度によって、その人の実力に見合った学習内容を提案しました。

12月8日に最終回を迎えましたが、1週間の仕事を終えた金曜日の夜に、難しい会計理論や計算のトレーニングを毎週行い、更に自宅学習まで要求されるわけですから、受講者は大変だったと思います。しかし、少しずつ実力が身につけていく様子が分かり、努力すれば必ず力が付くことを実感できたと思います。この力は、今後本人のため、また仕事を通して法人全体のために必ず役立つことになることを確信しています。

(経理担当係長 立花淳二)

福祉事業本部

グループホーム運営委員会の発足

福祉事業本部で運営するグループホームは現在、国分寺戸倉寮(定員4名1997年開寮)、東久留米第一・第二水川台寮(定員各6名2002年開寮)の3寮があり、合計で16名の知的障害のある方が地域で暮らしています。

当法人は就労支援事業としては55年の歴史と実績があり、新しい取組みを多々行ってきましたが、地域生活を支える事業は制度としても不十分な中、運営は試行錯誤の日々でした。この間、2003年の支援費制度、この度の障害者自立支援法と大きな制度の変革も加わり、入居者やご家族も、将来に向けての不安を抱えながらの数年であったと思います。昨年10月に新事業のグループホーム(共同生活援助)・ケアホーム(共同生活介護)に移行しましたが、まだ制度は動いています。(来年度からグループホームの利用者負担個別減免も改善されることとなったのは嬉しいニュースですが、さらにはたらきかけを続けていく必要があります。)

このような中ではありますが、おかげさまで生活の場としての寮運営

の枠組みができつつあり、ノウハウも蓄積してきています。これからの課題は、変化しつつある制度の中で、16名の入居者の方々が安心して暮らせる居心地のよい場として3寮が運営を存続していくには、どうしたらよいかということです。

このことに知恵をしばり検討するため、昨年9月に運営委員会を発足しました。委員を募集したところ、9名のご家族が手をあげて下さり、連携施設であるコロナ東村山より2名、総勢13名の委員会となりました。

た。

第1回を9月21日、第2回を11月15日に開催、ちようど自立支援法の10月施行の前後の時期であり、制度の移行に関する共通理解を得る場となりました。今後も制度の変化については把握しつつ、具体的な課題(たとえば、夜間支援の体制をどうするか?金銭預かりの方法、移動支援をどう利用していくか?など)を一つ一つ解決していく場としていきたいと思ひます。

(福祉事業本部長 加藤留美子)

法人の主な動きから

新理事・評議員・監事の

選任と新役員等の選任

2006年十一月十一日に開催された第四五回評議員会及び第一九九回理事会において、2006年十一月二十八日から二年間の任期で、新たな評議員・理事・監事が選任されました。

また、2006年十一月二十八日に開催された第二〇〇回理事会において、新役員等の選任もおこなわれました。「障害者自立支援法」の本格施行により、今後の法人運営は益々厳しさを増すことが予想されますが、引き続き東京コロナの事業に対するご理解と暖かいご支援をお願いいたします。

(事務局局長 神野敏夫)

理事・評議員
 同 勝又和夫
 同 高山真三
 同 木村良二
 同 飯島 毅
 同 武者明彦
 同 鬼頭克介(理事新任)
 同 佐々木洋文

評議員
 同 竹原 悟
 同 朝日雅也
 同 比留間ちづ子
 同 松井保彦
 同 岸本美恵子
 同 滑川 修
 同 山根伸右
 同 正木洋介(新任)
 同 柿沼一彦(新任)

監事
 同 丸山一郎
 同 加藤一志

理事長
 勝又和夫
 専務理事
 飯島 毅
 常務理事
 武者明彦

苦情解決
 第三者委員
 同 野村 敏
 同 朝日雅也
 同 比留間ちづ子
 同 三友敬太
 (敬称略)

※大坪哲夫顧問、手塚直樹理事・評議員が退任されました。永きに亘り、ありがとうございました。

東村山第二印刷所 新事業の就労継続B型に移行

2006年10月1日付で、旧施設体系の社会事業授産施設「コロニー東村山第二印刷所」は、障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業(就労継続支援B型)としてスタートしました。東村山市との調整で移行時期が遅れたことで、利用者の皆様には大変ご迷惑、ご心配をおかけしました。自立支援法は既に多くの資料が配布されていますので、今回は移行した理由について書かせていただきます。

者を対象として高い公共性、純粋性を有する社会福祉事業として位置づけられ、障害者授産施設の役割と一定の整合性を求められながらも、失業や低所得といった社会変動等に起因する状況に対する有効策として考えられ、特にすさんだ現代ではたいへん有意義な制度といえます。

一つ目の理由として、障害者自立支援法では、社会事業授産施設に対し平成18年10月からの取扱についてのことを求めました。

①指定サービス事業へ移行(新体系の複数の事業の中から選択が可能)

②基準該当サービス事業(就労継続B型のみ)

移行時期について

①経過期間はもたず10月までに指定を受けること

利用者負担について

①障害者自立支援法に基づく利用者負担が発生

②社会福祉法人減免の対象

という具合に当事業所の利用者にとつては、いづれにしても自立支援法に基づいた利用しか選択できませんでした。(1人を除いてすべて障害

者利用) 二つ目の理由は、東村山市の情勢にありました。この法では過剰な事業について認めないこともできることを定めています。市では自立支援法に基づく新体系移行への事前調査を実施して、7割を超える施設がB型事業を想定しており、早めに定員枠の確保が必要でした。

三つ目の理由として、移行せざるを得ないのなら、現段階で同一敷地内にある他の施設(身体障害者通所授産施設・知的障害者通所授産施設)になるべく近い体系であるB型事業を。

というのが主な理由です。

公共性かつ純粋性の高い価値のある事業を移行せざるを得なかったことは大変残念に思います。しかし、障害のある人も地域で普通に生活ができ、働きたい場所で働ける機会を創設していくことは、支援事業者にとつて大事な役割だと思えます。2007年4月からは、変わらなければならぬこと、変えてはいけないことを一つひとつ整理しながら、改めて事業体系を再構築していく予定です。みなさまのご指導ご協力をよろしくお願いします。

(所長 中村敏彦)

在宅就労セミナーの開催

「障害者雇用促進法改正で、在宅就労に何が起ころう？」

去る11月29日、大手町の日本工業倶楽部ホールにて、東京労働局様との共催で在宅就労についての広報イベントを行いました。

2006年の4月より完全施行された「改正障害者雇用促進法」によって、在宅で働く障害者に対する支援が強化されることとなったのはご存知の方も多いと思いますが、就業機会拡大を推し進めるものとして注目を集めている割には、「実際のところどうなの?」、「興味はあるけど…」で終わっている事業主の方も多いとうかがっています。そこで、スタートラインに立つて間もないこの法改正と諸制度について正確に紹介し、働く人や会社にとどのような変化を及ぼす可能性があるかを幅広く考えていきたいと思い、レクチャーとシンポジウムを組ませた内容でこのセミナーを開催いたしました。

当日は予想以上の来場者で、質疑応答も活発に行われました。事後いただいたアンケートではシンポジウムの在宅雇用実践事例が大変好評のようで、「このような雇用形態がすでにうまく行われていることに驚いた」、「今後、我が社でも検討してみたい」など多様な意見がありました。



(セミナー会場の様子)

今まで在宅就労について興味や知識をお持ちでなかった事業主の方も大勢おいでになり、200名を超える方々が雇用の多様性を考える一日となりました。

(職能開発室課長 堀込真理子)

※また、2月14日に第2回のセミナーを実施する予定です。こちらは、非雇用の形(SOHO)をメインとした内容で行ない、障害のある在宅就労希望者の方、就労支援団体の方を中心に募集いたします。こちらもお楽しみに!

介護保険の事業者指定(2006年12月1日付)

福祉事業本部のトータル生活支援センターでは、2005年度の後半より知的、身体、児童、精神の障害のある方を対象に居宅介護事業を開始し、2006年10月に障害者自立支援法の新事業に移行しました。そして、この度、12月1日付で介護保険制度の訪問介護事業者の指定(中野区周辺地域)を受け、65歳以上の方へのサービス提供も可能となりました。

いずれば介護保険制度の事業も加える必要があることは考えていたものの、本年度の事業計画ではまだ検討の段階と考えておりました。しかし、利用者のお一人が介護保険の対象となる年齢になられ、当センターの利用継続を希望して下さったことがきっかけで、急遽手続きをするにとしました。

当センターでは、当初は法人内のグループホームや通所施設を利用する皆様を中心とした居宅介護、移動支援のサービス提供をしてきましたが、最近では法人外からのお問い合わせやご利用も増えてきております。現在のご利用者は約20名、ヘルパー数もほぼ同数くらいとなっています。介護保険の指定を受けたことで、利用していただける対象の中がぐんと広がりました。ヘルパー確保にさら

に努力していかなければと思います。

(福祉事業本部長 加藤留美子)

*ヘルパーさん募集!

トータル生活支援センターでは、中野、東村山、東久留米、その周辺地域にお住まいの方で、ヘルパー資格を持ち仕事をしたい方を募集しております。ぜひ、一度ご連絡下さい。また、お知り合いの方にも声をかけていただければ幸いです。どうぞ、宜しくお願いいたします。

電話 03-3952-6166

(担当 木村、加藤)



二〇〇六年度 上半期 総括事業報告書

国は、昨年10月に「障害者自立支援法」を制定し、戦後の障害者福祉を一変させる内容をもって本年4月から施行しました。

「障害保健福祉の総合化」(身体・知的・精神障害者に対するサービスの共通化と市町村を中心とする実施体制化等)、「自立支援型システムへの転換」(就労および自立支援の重視等)、「制度の持続可能性の確保」(義務的経費化と定率負担の導入等)の3本柱からなるこの改革は、利用者に対する実費負担と定率負担を求め、事業者には市場原理にもとづく競争を促すものとして関係するすべての

人たちに努力や工夫を求め、ものとなつていきます。

支援費をはじめとする公的援助の収入減は、職員・利用者処遇にも大きな影を落とすとともに、当法人の運営にも深刻な問題をもたらしています。また、上半期は各事業所とも新法への対応に追われ、下半期もさらにそうした膨大な作業を継続しなければならぬ状況です。

一方、東京都は2006年2月に公表した「福祉・健康都市東京ビジョン」において、福祉工場の民間委譲を謳っており、法人としての方針を早急に構築する対応が求められています。

2006年度上半期の業績は、売上が3,028百万円

(前年同期比▲1,480百万円)、損益で25百万円(前年同期比▲211百万円)となりました。大幅な減少は一年、昨年と続いた防災部門の

特需がなくなり、通常ベースの売上に戻った事に起因します。公的援助も前年同期比20百万円減少しましたが、なんとか黒字を計上する事ができました。下半期については、引き続き印刷部門の売上低迷や、さらなる公的援助の減少等が見込まれる事からさらに厳しい状況が続くものと思われ

ます。こうした状況を踏まえ、各

事業所における人員の適正配置、費用対効果の検証、事業の優先順位付けと見直し、売掛債権の確実な回収等をさらに徹底し、法人の財政問題を含む存立基盤の改善を図る必要があります。

法人経営のまさに正念場の時期であり、障害者自立支援法の施行が障害者福祉に投げかけた波紋をピンチと捉えず、チャンスに変え、今後とも法人全職員挙げて東京コロナーの明日を考え、行動するきっかけとしたいと考えます。



表1 総括決算損益推移表

(単位：千円)

		(注) 2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
1. 法人本部	中間決算	△ 27,372	10,662	10,475	17,231
	決 算	△ 22,194	26,424	22,687	* 25,000
	損益累計	83,395	109,818	132,505	* 157,505
2. 福祉事業本部 (戸倉寮・第一氷川台寮・ 第二氷川台寮・居宅支援)	中間決算	6,606	△ 132	389	1,306
	決 算	5,134	1,128	4,178	* 6,606
	損益累計	6,457	7,585	11,763	* 18,369
3. IT事業本部	中間決算	△ 5,288	11,695	9,589	14,546
	決 算	14,697	33,688	22,746	* 7,503
	損益累計	39,142	72,830	95,575	* 103,078
(1) トーコロ情報処理センター事業部	中間決算	3,719	4,870	4,866	2,663
	決 算	7,947	12,693	10,784	* 4,574
	損益累計	43,681	56,374	67,158	* 71,732
(2) 職能開発室 (含 事務局)	中間決算	951	△ 28	△ 629	8,139
	決 算	1,346	465	914	* 1,194
	損益累計	6,057	6,522	7,435	* 8,629
(3) デジタルメディアセンター	中間決算	△ 9,958	6,853	5,352	3,744
	決 算	5,404	20,530	11,048	* 1,735
	損益累計	△ 10,596	9,934	20,982	* 22,717
4. 社会就労事業本部	中間決算	△ 54,069	△ 25,392	△ 61,257	△ 45,682
	決 算	△ 12,023	13,161	15,761	* 7,031
	損益累計	△ 476,941	△ 463,780	△ 448,018	* △ 440,987
(1) コロニー印刷所 (含 コロニー中野・アートビリティ)	中間決算	△ 23,037	△ 17,148	△ 36,125	△ 23,592
	決 算	4,693	2,902	3,088	* 0
	損益累計	△ 350,904	△ 348,002	△ 344,914	* △ 344,914
(2) コロニー東村山印刷所 (含 コロニー東村山・第二印刷所)	中間決算	△ 35,654	△ 12,184	△ 31,190	△ 23,622
	決 算	△ 27,806	2,581	599	* 0
	損益累計	△ 143,444	△ 140,863	△ 140,264	* △ 140,264
(3) トーコロ青葉ワークセンター (含 第二・第三ワークセンター)	中間決算	4,622	3,940	6,058	1,532
	決 算	11,090	7,678	12,074	* 7,031
	損益累計	17,407	25,085	37,160	* 44,191
5. 福祉工場事業本部	中間決算	59,442	23,583	276,557	37,710
	決 算	230,041	475,790	503,583	* 177,695
	損益累計	1,046,668	1,522,459	2,026,043	* 2,203,738
(1) 葛飾福祉工場	中間決算	74,495	34,242	305,344	48,011
	決 算	227,049	454,537	499,948	* 168,495
	損益累計	1,380,234	1,834,772	2,334,720	* 2,503,215
(2) 大田福祉工場	中間決算	△ 15,053	△ 10,659	△ 28,787	△ 10,301
	決 算	2,992	21,253	3,635	* 9,200
	損益累計	△ 333,566	△ 312,313	△ 308,677	* △ 299,477
合 計	中間決算	△ 20,681	20,416	235,753	25,111
	決 算	215,653	550,191	568,955	* 223,835
	損益累計	698,721	1,248,912	1,817,868	* 2,041,703

* 見込額

〈(注) 2003年度は新会計移行に伴い損益累計表示の変更あり〉

表2 在籍者の推移

自2006年4月1日 至2006年9月30日

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期 中 増 減		法人内異動を除く主な減員理由		上 期 末 在籍者数
		増 員	減 員	自己都合	疾病、その他	
雇 用 就 労 者	104	4 (1)	6 (1)	4	1	102
授産施設の利用者	204	21 (12)	12 (1)	10	1	213
パ ー ト 等	5	0 (0)	0 (0)	0	0	5
訓 練 生 等	19	7 (0)	16 (11)	0	5	10
障害のある就労者 計	332	32 (13)	34 (13)	14	7	330
障害のない就労者	261	24 (21)	25 (21)	4	0	260
合 計	593	56 (34)	59 (34)	18	7	590

(注) () 内の数字は法人内異動をあらわします。



アートビリティ ギャラリー 18

『赤おに、青おに、黄色おに』
岡村 陸矢さん



■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年1年間の実績約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年4月アートビリティと改称。

今回は、第18回アートビリティ大賞でアサヒビール奨励賞を受賞した岡村陸矢さんの作品をご紹介します。

岡村さんは、アートビリティが協力をし、三菱地所株式会社主催する、障害のある子どもたちを対象にした絵画コンクール「キラッとアートコンクール」で優秀賞を受賞し、アートビリティ審査会を経て登録作家となりました。そして、2006年度のアートビリティ大賞式典において、新進気鋭のアーティストに贈られるアサヒビール奨励賞を見事に受賞し、これからのアートビリティを担う作家の一人として多に期待されています。

岡村さんの作品は、さまざまな色画用紙を使って制作された切り絵です。動物や植物の形を、岡村さんはまったく下書きを描かず、画用紙から直接切り出していきます。その造形センスもさることながら、色のセンスや構成力も抜群とアートビリティ大賞選考会において高く評価をされました。

岡村さんと切り絵との出会いは、小学校一年生の学校の教室でした。他の子どもたちがやっていた折り切り絵を興味深く見つめていたのが、後から振り返ってみるときっかけだったのでないかと、岡村さんのお母さんがお話をしてくれました。そのときは特に自分からやろうというそぶりは見せなかったそうですが、数日後、家で突然、動物の形をハサミで器用に切り始めたそうです。そのときの切り絵があまりにも上手だったので、お母さんはいへん驚かれたようです。

今では、岡村さんの切り絵の熱狂的なファンが、地域や学校関係者を始め、たくさんいます。11月に開催されたアートビリティ大賞作家展にも、その方たちが大勢駆けつけ、岡村さんの受賞を皆さんが喜んでくれました。

作家さんに贈る言葉としてアートビリティがよく使わせていただくのは「これからもステキな作品を描き続けてください」というものです。岡村さんにこの言葉を贈ると、必ずこう答えてくれます。「はい、切ります」。

岡村さん、これからもステキな作品を切り続けてください。まだ17歳。これからはもっと楽しんで作家さんです。

アートビリティ事務局 岡嶋 明美

ご協力をお願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自律支援です。私共の事業を応援して下さる方（あるいは団体）からのご協力を、下記を窓口で常時受け付けております。ご寄付の場合は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。
(社会福祉法人への寄付は、税金が免除になります。ご寄付をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。)

ご寄付受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局 (担当 加藤)
〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7 tel03-3952-6166 fax03-3952-6664

東京コロニーのホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
コロニー東村山第二印刷所
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



コロニー印刷所
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



デジタルメディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



アートビリティ
<http://www.artability.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター
<http://www.tocolo.or.jp/seikasu/index.htm>



グループホームのページ(東久留米氷川台寮)
<http://www.tocolo.or.jp/hikawadai/index.html>